

A misty landscape at dawn or dusk with a red moon in the sky. The scene is hazy, with mountains and trees visible in the background. The sky is a mix of purple, pink, and blue.

# 天職觀光

# AtoZ

綾部編

## message

### 「天職観光AtoZ【綾部編】」は

「天職のヒントを探す旅」という観点から、みなさまの旅を応援する綾部の人、店、農家民宿、スペース等をAからZまでの26のキーワードで紹介する新しいガイドブックです。

新しい時代の生き方、暮らし方、働き方をみんな探している時代。

未来のヒントを綾部に求めてくださる方をすこしでも応援できたらうれしいです。

みなさまの綾部への旅が、人生という旅が、すてきなものになりますことを祈っています。

みなさまの新しい生き方がこの国の未来を変えていきます！

半農半X研究所代表・塩見直紀

A～Zの26の枠に入らない魅力的なスペースが綾部にはたくさんあります。

いつか、第2・3弾もつくれたらうれしいです。

## contents

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| A | ajikido<br>あじき堂  | N | satoyama net ayabe<br>里山ねっと・あやべ        |
| B | bokkatte<br>農家民泊ぼっかって                                  | O | oomoto&aikido<br>大本&合気道の発祥地            |
| C | get me to the church<br>get me to the church           | P | pokapokanouen<br>農家民宿 ぽかぽかのうえん         |
| D | gallery cafe hibi<br>ギャラリーカフェ日々                        | Q | question<br>question                   |
| E | earth day in satoyama net ayabe<br>小さなアースデイin里山ねっと・あやべ | R | anne's rose<br>アンネのバラ                  |
| F | sobanohana<br>そばの花                                     | S | sakuratier<br>chou chou サクラティエ         |
| G | gunze memorial hall<br>グンゼ記念館                          | T | tegaminokinoie<br>農家民宿 手紙の木の家          |
| H | satoyama guesthouse couture<br>里山ゲストハウス クチュール          | U | takematsu udon ten<br>竹松うどん店           |
| I | iwan no sato<br>農家民宿 イワンの里                             | V | suigen no sato volunteer<br>水源の里ボランティア |
| J | journey<br>journey                                     | W | kurotani washi<br>黒谷和紙                 |
| K | kamyata<br>カミヤータ                                       | X | han no han x<br>半農半X研究所                |
| L | tsukiboshi<br>カフェ月星                                    | Y | yoshio inoue<br>かかりつけ米農家 井上吉夫さん        |
| M | mizutake no shokutaku<br>水田家の食卓                        | Z | zokuzoku<br>続々!                        |



ajikido



bokkette



get me  
to the church



gallery cafe  
hibi



earth day



soba no hana

あじき堂は、農作物を育てながら食や暮らしを見つめるそば屋です。2008年より綾部にターンス、小さな農業を開始。2015年にそば処あじき堂を志賀郷で開店。アツと驚くようなあたらしい組み合わせを暮らしの中にある単純作業をしながら探しています。(安喰健一)

### あじき堂

自然農をしながら自給的な暮らしを目指して加工品を作ったり絵を描いたりしながら田畑につながる小さな暮らしをしています。緑いっぱい、生き物が沢山住む空気の綺麗な自然溢れる里山です。何もない所ですが田畑や景観、空気や夜空を楽しんで頂けたら嬉しく思います。(加納昭文)

### 農家民宿ぼっかつて

get me to the church! 教会に私を連れてって! という名のカフェレストラン。半世紀前に建造された教会をリノベーション。季節の天然魚介と無・減農薬の野菜やジビエなど北京都の四季の恵み。そんな地域のオーガニック素材を料理・ドリンクで表現するガストロノミーとして2019年にオープン。(宮野晋)

### get me to the church

アートをどのように捉えるか。その実験的スペースとしての「日々」。立ち寄っていただいたお客様に何らかの変化が生まれる、そんな場でありたいと考えています。村上隆、千住博、絹谷幸二などの作品や地元の作家さんの展示をして皆様をお待ちしています。(河北一彦)

### ギャラリーカフェ日々

地球環境のことを考え、自分にできる小さな一歩を体験するための、移住者と地元の人と一緒に作るイベントです。自分たちが好きで人も喜ぶことをしたいと思い、2016年に神奈川の会社を辞め、綾部に引っ越してきた私たちですが、芋づる式に様々な人を紹介してもらえたので、引っ越して1年で開催できました。(大力浩二・聡美)

### 小さなアースデイ in 里山ねっとあやべ

上八田町の古民家で15年以上経営されているおそば屋さん。蕎麦の美味しさは遠方からもお客さんが集まるほど。冬の夜には鴨鍋(要予約)も楽しめ、時折ライブ会場にもなることも。なにより店主村上さんのお人柄で地域を明るくしてくれる上八田にはなくてはならない名店。(水田ウタコ)

### そばの花

綾部市志賀郷町町ノ下31  
090-8099-6422  
定休日 火・水・木

綾部市西方町貝尻10-1  
090-4491-3290

綾部市新宮町6  
綾部カトリック教会跡  
080-1238-6477  
定休日 月

綾部市西町2-82  
0773-49-0278  
定休日 水・木

earthday@ayabe.jpn.org  
090-9367-1529

綾部市上八田町館ノ前1  
0773-44-1191  
定休日 火・第2・3水



gunze  
memorial hall



satoyama guesthouse  
couture



iwan no sato



journey



kamyata



tsukiboshi

1896(明治29)創業の郡是製糸(現グンゼ)は企業を取りまく関係者との共存共栄をめざす画期的な企業として誕生。創業者・波多野鶴吉は今でいう稀有な社会企業家でした。綾部は当時、何鹿(いかるが)郡という地名でした。郡是という社名は「国には国是があるように郡には郡の是を」という前田正名の講演に由来しています。※あやべグンゼスクエア内には、グンゼ博物館(火休)や、あやべ特産館もあります。ぜひお立ち寄りください。(塩見直紀)

## グンゼ記念館

綾部市青野町膳所1番地  
0773-42-3181  
グンゼ記念館は金曜日のみ開館

大阪から移住し、宿と旅行業をしています。ゲストの半分は外国人。移住に興味ある方が泊まれた時は、移住者や地元の方を呼んでごはん会をすることもあります。事前にご興味などをお聞きし、インスピレーションを得られそうな場所・人を訪ねる天職観光ツアーも実施しています。

(工忠照幸)

綾部市五泉町下ノ段16  
<https://guesthouse-couture.com/>

## 里山ゲストハウスクチュール

穏やかな山々に囲まれ、田畑の中に古民家集落が点在する。広い空にお日様、夜はお月様や星の数々、鳥の声、小動物、自分も自然の一部だと実感。綾部に住みはじめて個性を輝かせている人たちと、「綾部だったら何かできそうな気がするね」とよく話しています。泊まってもらった方々との楽しい出会いが幸せです。(秋元秀夫)

## 農家民宿イワンの里

綾部市上八田町上ノ岡ノ下24  
0773-21-1648

新しい生き方、暮らし方を模索していた若き日、京都駅前のギャラリーで天使と羊の絵に出会いました。作家の住所を見ると、なんと綾部とありました。帰省したとき、関輝夫・範子夫妻のアトリエ夢旅人舎を訪ね、今後の人生を相談。僕にとって大事なジャーニーとなったのでした。

(塩見直紀)

## アトリエ夢旅人舎

2015年に移住した平田佳宏、郁子夫婦の家は「カミヤータ」といいます。上八田町にちなんで名づけました。「経済成長なきシアワセ」を信条として、週に3日は地元新聞社に勤め、残りは田畑で汗を流す日々。移住して田舎で暮らすことにして良かったと心から思っている人間です。

(平田佳宏)

## カミヤータ

長野県から移住された岡村さんが経営する沖縄料理のお店。口上林地区ののどかな風景を眺め店に向かう道中で小旅行気分を味わえ、沖縄そばの出汁の香りとカメカメランチの美味しさに心が満たされます。居心地もよく、のんびりとした時間を過ごせます。冬の間はお店はお休みです。(水田ウタコ)

綾部市武吉町西45  
0773-21-6392  
<https://ameblo.jp/tsukiboshi888/>  
定休日:火・水・木

## カフェ月星





小さな農業をしている農家民宿です。wwofのホストもしており、世界中からの旅人は我が家や村を吹き抜けてくれるすがすがしい風のように。畑で取れた野菜の料理を食べながら、水田家の食卓で夢を語り合しましょう。今を感じ、未来へ一歩を踏み出す旅になりますように。

(水田裕之)

綾部市志賀郷町山ノ神13  
090-7117-9068

## 水田家の食卓

なつかしい小学校跡の教室での懇談や、木の香り高い森の京都のホールでの読書を通じて、里山の恵みを活かした暮らしについて思いを馳せる、古くて新しい空間です。米蔵を改装したお店「空山の里」とともに、リノベーション施設の扉をあければ地域でのなりわい作りを実感できます。(朝倉聡)

綾部市鍛冶屋町茅倉9  
(綾部市里山交流研修センター)  
0773-47-0040  
休館日 火  
<https://ayabesatoyama.net>

## NPO法人里山ねっと・あやべ

大正7年暮れ、植芝盛平、初めて綾部へ。出口王仁三郎に会い、感銘を受け、翌年1月に家族と綾部へ移住。王仁三郎の精神的指導をうけ、道場「植芝塾」を開き、武術の修行に励む。大正14年、42歳にして「真の武とは万有愛護の道なり」の理念と気の妙用の機微を悟り、「戦わずして勝つ」合気の道を究めた。

(鹿子木且夫・綾部植芝盛平翁顕彰会事務局長)

## 大本 & 合気道発祥地

私は自然と共に生きる道を選び、東京から綾部に移住しました。古民家を改装し、周りがある田んぼや畑をしながらのんびり暮らしています。自然の中でゆっくりしたい方、都会から田舎へ移り住もうとお考えの方や土に触れてみたい、農家体験してみたい方などぜひいらしてください。

(櫛田寒平)  
綾部市上八田町ヒシロ6  
0773-21-4188

## 農家民宿ほかほかのうえん

あなたの目指す生き方とはどんなものですか。おカネに依存しない生き方?自然とともに暮らすこと?安全でおいしい食べ物を自給すること?家族との時間を大切に作る毎日?思い切り創作活動に打ち込むこと?地域と助け合う生き方?

思い切って行動を起こせば、そのどれもがきっと手に入ります。

(平田佳宏)

## question

「アンネの日記」で有名なアンネ・フランクにちなむ「アンネのバラ」を育苗する山室建治さんは親子二代で育苗に奉仕されています。そのバラは全国の教会や学校などへ。市民向けのアンネのバラの接ぎ木の講習会も毎年開催されています。JR綾部駅の北口にはバラに囲まれたアンネ・フランク像があります。

(塩見直紀)

## アンネのバラ



sakuratie



tegami no ki  
no ie



takematsu udon ten



suigen no sato  
volunteer



kurotani  
washi



han no han X

カフェの前には開放的な芝生の公園とウッドデッキ、中に入ると市民から寄贈された絵本が本棚に並び、ゆったりと落ち着いた空間が広がる。まちライブラリーとして巣箱型の本箱があったり、親子で参加できる催しがあったり。本を通して自分を見つめ、緩やかに人と人がつながっていきける場所です。

(重本晋平)

綾部市青野町西青野18  
0773-43-3366  
定休日 火+第2・4水

絵本カフェ CHOUCHOU サクラティエ

タラヨウの木(別名手紙の木)がシンボルのように立ち、山と田んぼに囲まれたロケーション抜群の宿。春は家のまわりが野草の宝庫、初夏にはホテルが舞い、秋には柿や栗など秋の味覚を満喫、冬は薪風呂と薪ストーブでぽかぽかです。3人の子どもと愛犬チョコと一緒にお待ちしています。

(金田博子)

綾部市志賀郷町藤谷16-2  
0773-21-2069

農家民宿 手紙の木の家

讃岐&全国行脚仕込みの純手打ちうどんを薪釜で茹で上げ、無化調天然だしのつゆでどうぞ!香川に行かなくても本場のうどんと空気を味わえます。魅力あふれる人が住む綾部!日本の原点のような風景に包まれながらうどんを味わえば、きっと素敵なお人に出会えます。

(竹原友徳・妙)

綾部市志賀郷町儀市前13  
0773-21-1665  
11時から15時まで  
定休日 7.8.9がつく日

竹松うどん店

2007年4月、5集落で始まった水源の里連絡協議会が現在では16集落となり、それぞれの集落が特性を活かして、お互いが切磋琢磨、時に競い合いながら活動を続けています。2012年に知事表彰、2013年国土交通省表彰を受けました。マスコミの報道で元気をもらっています。鹿よけネット張り、栃の実拾い、雪かきボランティアの応援があります。

(西田昌一・あやべ水源の里連絡協議会代表)

水源の里ボランティア

およそ800年前、平家の落人が始めたと言われる黒谷の手漉き和紙。昭和58年には、京都府指定無形文化財に、楮・三桮・雁皮・麻等を使用した「純生和紙」が登録される。素朴な紙から洗練された最高級紙まで、様々な種類の紙が職人の技によって生み出されている。紙漉き、和紙を求めて、綾部への移住もあります。

(林伸次・黒谷和紙協同組合理事長)

黒谷和紙

半農半X(=天職)というコンセプトを約25年前から提唱しています。綾部の農家民宿で1泊2日の「半農半Xデザインスクール」や「綾部ローカルビジネスデザインスクール」「スモールビジネス女性起業塾」などおこなってきました。半農半X本が翻訳され、最近では、台湾、中国、韓国からも価値観を共有する友が旅してくれます。(塩見直紀)

綾部市鍛冶屋町  
090-6249-6539

半農半X研究所



yoshio inoue



zokuzoku



綾部には「FMいかる」と「あやべ市民新聞」という2つの地域メディアがあります。市民の良好な情報環境に貢献しており、親しまれています。情報を伝えるのみならず、市民の発言の場として広く門戸が開かれており、意見や主張を拡散させたり、文化的な発表の手段としても活用されています。

### FMいかる

76.3 MHz  
コールサイン JOZZ7AM-FM  
開局日 1998年4月17日  
綾部市西町1丁目65

### あやべ市民新聞

創刊日 1983年4月1日  
発行 週3回(月・水・金)  
綾部市大島町沓田4-3

## 移住立国とは？ <https://ijurikkoku.com/>



移住立国あやべ  
IJURIKKOKU AYABE

自分や家族の食べるものは自分で作りたい。おカネばかりに頼る生活から卒業したい。美しい里山の中でゆったりと暮らしたい、子育てしたい。土に触って働く喜びを感じたい。人と人の距離が近いところで暮らしたい。今、そんな人がどんどん増えています。そして綾部にもたくさん移住してこられます。

一方、綾部は人口が減り続けています。このままでは伝統行事や助け合い、社会システムなど、維持しなくてはならないものが維持できなくなっていくかもしれません。

私たちはもっとたくさんの人に綾部に移住してほしいと願っています。綾部の穏やかで人なつこい人たちと、四季のやさしく美しい風景がお待ちしています。そんな歓迎の心を、もっと知っていただくための取り組みが移住立国です。

でも「立国」とはちょっと大袈裟じゃないかと思われましたか？

日本は都市と地方の人口バランスが極端に悪い国です。特に首都圏への人口集中の度合いは世界に類を見ないほど。日本の食料自給率は40%を切っており、先進国中最低ですが、地方の人口減少がこれをさらに深刻化させます。人口のアンバランスを是正せずに放置することは国にとってのリスクです。第二次世界大戦後に日本が驚異的なスピードで復興できたのは地方に力があったからこそなのですから！

今後30年間で綾部市の人口を4万人に！

「今後30年間で人口を4万人に」が移住立国プロジェクトの目標。たとえ日本の人口が減ろうとも、人口のアンバランスを是正することはできません。

### 続々！

AtoZ制作中にも、綾部に新しい魅力的なスペースが誕生。シェアオフィス「ピースビル」(駅前)。綾部出身の滋野悦子さんが伏見の店に続き、自然食の店「綾部つむぎ」も開店。宮園ナオミさんの米粉の店「KOKU」も注目です。ますますおもしろくなる綾部です。

あやべピースビル  
綾部市駅前通  
自然食おばんざい 綾部つむぎ  
綾部市神宮寺町筋違畑15-2  
090-9161-3690  
定休日 平日(土・日・祝営業)  
KOKU  
綾部市八津合町西屋14  
0773-21-8174  
<https://koku-kyoto.com/>

### かかりつけ米農家

### 井上吉夫さん

都会の家は、土地代が半分、建物代が半分、それに30年ローンを組んだら金利はいくらになるの？

なんのために働くの？  
田舎で新築建てな。古民家買いな。

収入は少ないけど、いかに稼ぐかではなく、いかに使わないかも大切。お互いを気遣いながら生きていける。

田舎で暮らせばいいのに。(井上吉夫)

綾部市志賀郷町



「移住立国」というプロジェクトに取り組んでいます。成果を上げている国の施策「観光立国」からヒントを得て名づけました。

綾部にたくさんの移住者に来てもらい、現在3万3千人の人口を30年間で4万人にするのが目標。なんだその程度か、と言わないでください。高齢化が進み、若者が離れていく田舎にとっては難しい数字なのです。

第二次世界大戦で大都会を中心に壊滅的な被害を受けた日本が立ち直れたのは地方に活力があったからです。東京への人口一極集中は大きなリスクです。地方が活力をなくすることは第一次産業が成り立たなくなること。そうすると第二次、第三次産業もやっていけません。都会と田舎の両輪がうまく回っていかないと日本はダメになります。移住は国を救うのです。だからこそ今「移住立国」。

土に触れ、汗を流して、自給やものづくりのためのプロセスを楽しむことこそ、これからの人間的な生き方だと心から思っています。ぜひ田舎で天職を見つけてください。



平田佳宏  
あやべ市民新聞社経営企画室長  
1962年、香川県生まれ。青山学院大学卒業後、電通に入社。2015年、勤続30年で早期退社し、夫婦で綾部に移住。家と田畑などを譲り受け、無農薬・無肥料でコメや野菜を作りながら、週に3日は新聞社に勤務する。綾部は緑もゆかりもない土地なのに、不思議な引力に導かれるように住むことになった。土に触れながら、できるだけ自然なことをせずに生きる道を求めている。

#### 水田ウツコ

あやべ市民新聞社経営企画室 デザイナー  
1980年、広島県生まれ。進学を機に京都、沖縄、大阪と渡り歩き2014年綾部に移住。夫と3人の子どもと5人暮らし。田舎に生まれ育った反動で都会への憧れをモチベーションに幼少期を過ごしたものの、なぜか地元より田舎に住むことになろうとは。綾部市のことは位置も存在も知らなかったのに、見えない力に引き寄せられ移住に至る。大阪での生活を謳歌してからの、都会暮らしへはもう戻れない。



綾部に来る前に住んでいた大阪市某区と綾部市を比べてみると、綾部市は面積が24倍、人口は1/3。某区の人口密度は6,719人/km<sup>2</sup>に対し、綾部市は94人/km<sup>2</sup>！この密度の違い、ケタが違いすぎてくららさそう。大阪の狭いマンションでドタバタ走り回る我が子を、隣近所に住む名前も顔も知らない人の迷惑になるから静かに、と暖簾に腕押しながらもたしなめていた生活から一転、騒ごうが走り回ろうが気兼ねしないストレスレスな生活に。都会は刺激的で楽しいけど、はたと気づいたら消費するばかりの日々。かといって夫の賃金は上がらないし保育園難民だから私は働けない。消費するために生きている感じ。綾部に来てからは、野菜やお米を作ったりで消費ではない楽しみを知り、保育園に預けられて私も無事就職。様々な出身地やいろんなバックボーンを持つ移住者に会ったり、地元の人にこころへんのことを教えてもらったり、農家民泊に来るゲストと会ったり、綾部での生活もほどよい刺激があるので移住して6年目の今も日々驚きと発見があります。

夫婦で綾部に移り住んで間もない頃、近所のおばあちゃんから「いつもありがとう。」と声を掛けていただきました。その時にはわからなかったのですが、いままで空家のようになっていた家に私たちが越してきて、夜になるとあかりが灯る。そのことが、おばあちゃんにとっては「何より嬉しく、心強い。」ことだったと知りました。

いまの時代では、住む場所によっては隣近所の住民の名前や顔すら知らないということもよくあることですが、少なくとも私の住むこの場所では、顔を合わせたら名前を呼び合い挨拶をしたり、立ち話をしたりと家族のように温かく、気兼ねない関係が育まれています。

生活をしていく中ではまだまだ不慣れなことが多く、勉強することばかりですが「わからないことがあれば何でも聞いてや」という町内の人たちにいつも助けられながら、また私たちも「ありがとう。」という感謝の気持ちを声に出して、日々を過ごしていきたいです。



重本晋平  
あやべ市民新聞社経営企画室  
デザイナー  
1985年、京都府生まれ。2018年、結婚を機に京都市内から綾部へ移住。週4日の新聞社での勤務以外はアーティストとしての顔を持ち、日本各地で活動を展開している。綾部での新生活は未体験のことも多く、忙しくも新鮮で学びに満ちた日々を送っている。最近では畑をはじめたことで、農作物を育てる楽しさや喜びにハマっている。



## 天職観光AtoZ【綾部編】

発行日	2019年9月30日
表紙写真	鈴木隆
文・写真	秋元秀夫・朝倉聡・安喰健一・井上吉夫・金田博子・ 加納昭文・河北一彦・櫛田寒平・工忠照幸・塩見直紀・ 重本晋平・大力浩二 聡美・竹原友徳 妙・西田昌一・ 林伸次・平田佳宏・水田ウタコ・水田裕之・宮野晋
協力	京都新聞社(写真提供) 福田耕平(写真提供)
デザイン	水田ウタコ(ミズタマート)
題字	重本晋平(まちくさ博士)
制作	あやべ市民新聞社経営企画室 移住立国プロジェクト 塩見直紀(半農半X研究所、福知山公立大学、 総務省地域力創造アドバイザー)
発行	綾部ローカルビジネスデザイン研究所 塩見直紀 ☎090-6249-6539

### 綾部への移住相談 あやべ定住サポート総合窓口

綾部市役所定住・地域政策課内  
専用電話 0773-43-3723  
受付時間 8:30 ~ 17:15 (平日)

